

24. 3. 2004

JP2004/000178

#2

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

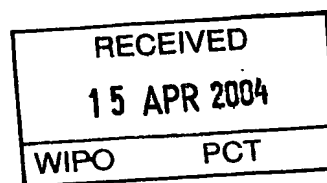
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 1 月 1 4 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 0 0 6 4 4 3
Application Number:

[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 0 0 6 4 4 3]



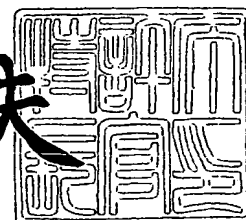
出 願 人 ユニ・チャーム株式会社
Applicant(s): 大日本印刷株式会社

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年 1 月 2 1 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願
【整理番号】 020926JP
【提出日】 平成15年 1月14日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 B65D 43/16

A47K 7/00

B65D 83/08

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
チャーム株式会社テクニカルセンター内

【氏名】 坂東 健司

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
チャーム株式会社テクニカルセンター内

【氏名】 三宅 大輔

【発明者】

【住所又は居所】 東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号 大日本印刷株
式会社内

【氏名】 林 正保

【発明者】

【住所又は居所】 東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号 大日本印刷株
式会社内

【氏名】 篠木 則和

【発明者】

【住所又は居所】 東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号 大日本印刷株
式会社内

【氏名】 上西 利彦

【特許出願人】

【識別番号】 000115108

【氏名又は名称】 ユニ・チャーム株式会社

【特許出願人】

【識別番号】 000002897

【氏名又は名称】 大日本印刷株式会社

【代理人】

【識別番号】 100099645

【弁理士】

【氏名又は名称】 山本 晃司

【電話番号】 03-5524-2323

【選任した代理人】

【識別番号】 100107331

【弁理士】

【氏名又は名称】 中村 聡延

【電話番号】 03-5524-2323

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 131913

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0105701

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 蓋付き容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内容物の取出口を有する容器本体と、前記取出口を開閉できるようにして前記容器本体に取り付けられた蓋と、前記容器本体と前記蓋との間に配置されて前記蓋を開く方向に付勢する蓋付勢手段と、前記蓋と噛み合っ該蓋を前記蓋付勢手段に抗して閉じた状態に保持する閉位置と、前記蓋との噛み合いが解除される開位置との間で操作可能な状態で前記容器本体に取り付けられた操作部材と、を備えた蓋付き容器において、

前記操作部材には、前記閉じた状態の前記蓋と噛み合うとともに、前記操作部材の操作方向に関して前記容器本体の係止面と当接して前記操作部材の前記閉位置から前記開位置への操作を不能とするロック位置と、前記閉じた状態の蓋及び前記容器本体の前記係止面のそれぞれから離れて前記操作部材の前記閉位置から前記開位置への操作を許容する解除位置との間で移動可能なロック部材が取り付けられていることを特徴とする蓋付き容器。

【請求項 2】 前記操作部材には前記容器本体の外面側に露出する操作面が設けられ、前記ロック部材は前記操作面の裏面側にて前記ロック位置と前記解除位置との間を移動可能に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の蓋付き容器。

【請求項 3】 前記操作部材は前記操作面を押し込むことによって前記閉位置から前記開位置へ移動するように設けられ、前記ロック部材は前記操作面を押し込む方向に関して前記操作部材に支持された状態で前記ロック位置と前記解除位置との間を移動可能に設けられていることを特徴とする請求項 2 に記載の蓋付き容器。

【請求項 4】 前記操作部材の裏面側には、前記ロック部材と接する案内面が形成されるとともに前記案内面よりも突出して前記操作部材を前記閉位置に付勢するばね部が設けられ、前記ロック部材は前記ばね部に設けられた溝部に差し込まれることにより前記案内面に接しつつ前記ロック位置と前記解除位置との間をスライド可能に支持されていることを特徴とする請求項 3 に記載の蓋付き容器

【請求項 5】 前記操作部材の前記溝部からの前記ロック部材の抜けを防止する抜け止め手段が設けられていることを特徴とする請求項 4 に記載の蓋付き容器。

【請求項 6】 前記操作部材の裏面側にはスリットにて分割された軸部が設けられ、前記ロック部材には前記軸部と嵌合する溝部が前記操作部材の前記溝部に対する前記ロック部材の差し込み方向に開口するようにして形成され、前記溝部には前記抜け止め手段として当該溝部の幅を狭める爪部が設けられていることを特徴とする請求項 5 に記載の蓋付き容器。

【請求項 7】 前記ロック部材の前記溝部は、前記爪部により、前記ロック部材が前記解除位置にあるときに前記軸部が嵌合する第 1 保持部と、前記ロック部材が前記ロック位置にあるときに前記軸部が嵌合する第 2 保持部とに区分されていることを特徴とする請求項 6 に記載の蓋付き容器。

【請求項 8】 前記操作部材の裏面側には段部が設けられ、前記ロック部材の前記操作部材に対する対向面上には、前記抜け止め手段として、前記ロック部材を前記操作部材の前記溝部から抜き取る方向に関しては前記段部と係合可能であり、かつ前記ロック部材を前記操作部材の前記溝部に差し込む方向に関してはくさび状に延びている突起状のストッパが設けられていることを特徴とする請求項 5 に記載の蓋付き容器。

【請求項 9】 前記ロック部材には、前記抜け止め手段として、前記操作部材の前記溝部からの当該ロック部材の抜き取り方向に向かうほど前記抜き取り方向に対する側方に突出する爪部が設けられていることを特徴とする請求項 5 に記載の蓋付き容器。

【請求項 10】 前記ロック部材には、前記操作部材の前記溝部に対する抜き取り方向の端部に位置して前記操作面から突出する指掛け部が設けられていることを特徴とする請求項 2 ～ 9 のいずれか 1 項に記載の蓋付き容器。

【請求項 11】 前記指掛け部が前記容器本体の外周よりも突出していることを特徴とする請求項 10 に記載の蓋付き容器。

【請求項 12】 前記容器本体は前記取出口側から見て中央がくびれた形状

に形成され、そのくびれ部分に前記操作部材が配置されていることを特徴とする請求項11に記載の蓋付き容器。

【請求項13】 前記ロック部材の裏面側には、前記ロック位置のときに前記容器本体の前記係止面に当接する脚部が設けられていることを特徴とする請求項2～9のいずれか1項に記載の蓋付き容器。

【請求項14】 前記蓋が前記閉じた状態にあるときに前記操作部材と対向する当該蓋の前縁部にはロック用凹部が設けられ、前記ロック部材には、前記蓋を閉じて当該ロック部材を前記ロック位置に移動させたときに前記ロック用凹部に差し込まれ、前記ロック部材を前記解除位置に移動させたときに前記ロック用凹部から脱出する係止部が設けられていることを特徴とする請求項1～13のいずれか1項に記載の蓋付き容器。

【請求項15】 前記操作部材又は前記ロック部材には、前記操作部材を前記閉位置から前記開位置へ操作したときに前記蓋と接して当該蓋を開く方向に押し上げる押し上げ部が設けられていることを特徴とする請求項1～14のいずれか1項に記載の蓋付き容器。

【請求項16】 前記容器本体にはストラップを取付け可能なストラップ取付部が設けられていることを特徴とする請求項1～15のいずれか1項に記載の蓋付き容器。

【請求項17】 前記操作部材又は前記ロック部材の少なくともいずれか一方には蓄光材料が含まれていることを特徴とする請求項1～16のいずれか1項に記載の蓋付き容器。

【請求項18】 内容物の取出口を有する容器本体と、前記取出口を開閉できるようにして前記容器本体に取り付けられた蓋と、前記容器本体と前記蓋との間に配置されて前記蓋を開く方向に付勢する蓋付勢手段と、前記蓋と噛み合っ該蓋を前記蓋付勢手段に抗して閉じた状態に保持する閉位置と、前記蓋との噛み合いが解除される開位置との間で操作可能な状態で前記容器本体に取り付けられた操作部材と、を備えた蓋付き容器において、

前記容器本体は前記取出口側から見て中央がくびれた形状に形成され、そのくびれ部分に前記操作部材が配置されていることを特徴とする蓋付き容器。

【請求項 19】 内容物の取出口を有する容器本体と、前記取出口を開閉できるようにして前記容器本体に取り付けられた蓋と、前記容器本体と前記蓋との間に配置されて前記蓋を開く方向に付勢する蓋付勢手段と、前記蓋と噛み合って該蓋を前記蓋付勢手段に抗して閉じた状態に保持する閉位置と、前記蓋との噛み合いが解除される開位置との間で操作可能な状態で前記容器本体に取り付けられた操作部材と、を備えた蓋付き容器において、

前記容器本体にはストラップを取付け可能なストラップ取付部が設けられていることを特徴とする蓋付き容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、容器本体の天面等に設けられた開閉式の蓋を操作部材の押し込み操作によって開くようにした蓋付き容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

袋詰めされたウェットティッシュの容器として、容器本体に対して押し込み操作可能な操作部材を装着し、その操作部材とウェットティッシュの取出口を閉じる蓋とを噛み合わせて蓋を閉位置に拘束し、操作部材の押し込み操作によって操作部材と蓋との噛み合いを外して蓋を開放させるワンプッシュ式の蓋付き容器が知られている（特許文献1参照）。また、操作部材が容器本体と一体に成形された蓋付き容器において、誤操作による蓋の開放を防ぐために、操作部材の押し下げ操作を不可能とする係止機構を組み込んだ蓋付き容器も知られている（特許文献2参照）。さらに、操作部材が容器本体と一体に成形された蓋付き容器において、操作部材の押し込み操作に伴って蓋をその下面側から押し上げる押圧部材が操作部材に設けられているものが知られている（特許文献3参照）。

【0003】

【特許文献1】

特開平9-58725号公報

【特許文献2】

特開 2001-146247 号公報

【特許文献 3】

特開 2000-25805 号公報

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

特許文献 2 に記載の係止機構は、押し込み操作される操作部材とは別部品として製造されたロック部材としてのスライダを容器本体に装着し、そのスライダを操作部材に対して係脱させて操作部材のロック及びその解除を切り替えている。しかし、スライダが蓋に対して直接作用していないので、操作部材の弾性変形の程度によっては操作部材と蓋との噛み合いが外れて蓋が開くおそれがある。また、操作部材が容器本体に対して別部品として設けられている場合には、操作部材及びロック部材を容器本体に対してそれぞれ別々に組み付ける必要が生じ、容器の組み立てに手間がかかる。

【0005】

そこで、本発明は、誤操作による蓋の開放を確実に防止でき、かつ容器本体に対する操作部材やロック部材の取り付けも容易に行える蓋付き容器を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

以下、本発明について説明する。なお、本発明の理解を容易にするために添付図面の参照符号を括弧書きにて付記するが、それにより本発明が図示の形態に限定されるものではない。

【0007】

本発明の蓋付き容器（1）は、内容物の取出口（10）を有する容器本体（2）と、前記取出口を開閉できるようにして前記容器本体に取り付けられた蓋（4）と、前記容器本体と前記蓋との間に配置されて前記蓋を開く方向に付勢する蓋付勢手段（5）と、前記蓋と噛み合って該蓋を前記蓋付勢手段に抗して閉じた状態に保持する閉位置と、前記蓋との噛み合いが解除される開位置との間で操作可能な状態で前記容器本体に取り付けられた操作部材（6）とを備えた蓋付き容器

において、前記操作部材には、前記閉じた状態の前記蓋と噛み合うとともに、前記操作部材の操作方向に関して前記容器本体の係止面と当接して前記操作部材の前記閉位置から前記開位置への操作を不能とするロック位置と、前記閉じた状態の蓋及び前記容器本体の前記係止面のそれぞれから離れて前記操作部材の前記閉位置から前記開位置への操作を許容する解除位置との間で移動可能なロック部材（７）が取り付けられることにより、上述した課題を解決する。

【0008】

この発明によれば、ロック部材をロック位置に移動させることにより、操作部材の開位置への操作が不能となり、蓋の意図しない開放が防止される。ロック位置ではロック部材が蓋と噛み合っているので、ロック部材により操作部材のみを拘束する場合と比較して蓋の開放防止効果が高まる。ロック部材を操作部材に取り付けているので、容器本体への取付前に操作部材とロック部材とを予め組み立てておくことができ、容器本体への装着時の手間が軽減される。

【0009】

本発明の蓋付き容器において、前記操作部材には前記容器本体の外面側に露出する操作面（30a）が設けられ、前記ロック部材は前記操作面の裏面側にて前記ロック位置と前記解除位置との間を移動可能に設けられてもよい。この場合にはロック部材を操作面の背後に隠して目立たないようにすることができる。操作面を容器の外面側に十分に露出させることができ、その操作性が損なわれない。

【0010】

前記操作部材は前記操作面を押し込むことによって前記閉位置から前記開位置へ移動するように設けられ、前記ロック部材は前記操作面を押し込む方向に関して前記操作部材に支持された状態で前記ロック位置と前記解除位置との間を移動可能に設けられてもよい。この場合には、操作部材の押し込み方向に関して操作部材とロック部材とを一体的に変位（移動）させることができる。従って、ロック部材を介して操作部材を開位置へと押し込むこともできる。

【0011】

前記操作部材の裏面側には、前記ロック部材と接する案内面（30b）が形成されるとともに前記案内面よりも突出して前記操作部材を前記閉位置に付勢する

ばね部（32）が設けられ、前記ロック部材は前記ばね部に設けられた溝部（37）に差し込まれることにより前記案内面に接しつつ前記ロック位置と前記解除位置との間をスライド可能に支持されてもよい。操作部材の裏面側に設けられたばね部の一部に溝部を形成してロック部材を差し込めば、操作面に対する裏面側においてロック部材が案内面に沿って摺動可能に保持される。

【0012】

前記操作部材の前記溝部からの前記ロック部材の抜けを防止する抜け止め手段（43a、43b、45、47）が設けられてもよい。抜け止め手段を設けることにより、誤操作によるロック部材の脱落を防止できる。

【0013】

前記操作部材の裏面側にはスリット（35a）にて分割された軸部（35）が設けられ、前記ロック部材には前記軸部と嵌合する溝部（42）が、前記操作部材の前記溝部に対する前記ロック部材の差し込み方向に開口するようにして形成され、前記溝部には前記抜け止め手段として当該溝部の幅を狭める爪部（43a、43b）が設けられてもよい。この態様によれば、ロック部材を操作部材の溝部に差し込む際にロック部材側の爪部と軸部とを接触させて軸部をそのスリットが狭められるようにして径が縮まる方向に弾性変形させ、爪部を乗り越えた後は弾性復元力で軸部を元の径に戻すことができる。ロック部材を操作部材から抜くにはスリットを狭めるように軸部を弾性変形させる必要があり、軸部が適度に抜け止めされる。

【0014】

前記ロック部材の前記溝部は、前記爪部により、前記ロック部材が前記解除位置にあるときに前記軸部が嵌合する第1保持部（42a）と、前記ロック部材が前記ロック位置にあるときに前記軸部が嵌合する第2保持部（42b）とに区分されてもよい。この場合には軸部を第1保持部又は第2保持部のいずれに嵌合させるかによって、ロック部材を解除位置又はロック位置に適当な力で保持することができる。

【0015】

前記操作部材の裏面側には段部（38）が設けられ、前記ロック部材の前記操

作部材に対する対向面（40a）上には、前記抜け止め手段として、前記ロック部材を前記操作部材の前記溝部から抜き取る方向に関しては前記段部と係合可能であり、かつ前記ロック部材を前記操作部材の前記溝部に差し込む方向に関してはくさび状に延びている突起状のストッパ（45）が設けられてもよい。この態様によれば、ロック部材を操作部材の溝部に差し込む際にはくさび状のストッパにより操作部材の溝部が徐々に拡大されてストッパが溝部を通過することができる。その後、ロック部材を操作部材から抜き取る方向に移動させると、ストッパが段部と係合してロック部材が抜け止めされる。

【0016】

前記ロック部材には、前記抜け止め手段として、前記操作部材の前記溝部からの当該ロック部材の抜き取り方向に向かうほど前記抜き取り方向に対する側方に突出する爪部（47）が設けられてもよい。この態様によれば、ロック部材を操作部材の溝部に差し込む際には爪部が内側に弾性変形して溝部を通過する。その後、ロック部材を操作部材から抜き取る方向に移動させると、爪部が外側に弾性変形して操作部材の溝部を通過できないようになり、それによりロック部材が抜け止めされる。

【0017】

前記ロック部材には、前記操作部材の前記溝部に対する抜き取り方向の端部に位置して前記操作部材の前記操作面から突出する指掛け部（41）が設けられてもよい。このように指掛け部を設けたならば容器の外側からロック部材を容易に操作することができる。さらに、前記指掛け部を前記容器本体の外側よりも突出させた場合にはロック部材を一層容易に操作することができる。ロック位置から解除位置へロック部材を移動させた場合にはロック部材が蓋から離れて指掛け部が操作部材から一層大きく引き出されるので、その指掛け部を押し込み操作することにより、テコの作用で操作部材の押し込み力を軽減し、蓋を軽い力で開けることができる。

【0018】

前記容器本体は前記取出口側から見て中央がくびれた形状に形成され、そのくびれ部分に前記操作部材が配置されてもよい。容器本体にくびれ形状を与えるこ

とにより、容器本体を掴みやすくなる。また、くびれ部分を含むようにして容器本体の外周にシュリンクフィルム等を巻き付けて容器を包装した場合には、くびれ部分でフィルムが容器本体から浮き上がり、その内側に配置された操作部材やロック部材がフィルムから離れてフィルムの擦れによる損傷が防がれる。ロック部材をロック位置に保持しておけば、仮にフィルムによってロック部材の指掛け部や操作部材が押し込まれたとしても、操作部材が開位置へ移動するおそれがない。特に操作部材の裏面側にばね部が設けられている場合には、包装状態における操作部材の開位置への移動を阻止することにより、ばね部のへたりによるばね性能の劣化を防止することができる。

【0019】

前記ロック部材の裏面側には、前記ロック位置のときに前記容器本体の前記係止面（25b）に当接する脚部（46）が設けられてもよい。脚部を係止面に接触させることにより、ロック部材がロック位置にあるときに操作部材が押し込み不可能となる。

【0020】

前記蓋が前記閉じた状態にあるときに前記操作部材と対向する当該蓋の前縁部にはロック用凹部（4j）が設けられ、前記ロック部材には、前記蓋を閉じて当該ロック部材を前記ロック位置に移動させたときに前記ロック用凹部に差し込まれ、前記ロック部材を前記解除位置に移動させたときに前記ロック用凹部から脱出する係止部（44）が設けられてもよい。ロック位置への移動に伴って係止部を蓋のロック用凹部に差し込めば、ロック部材により蓋の開放を確実に防止することができる。差し込み量を十分に確保することにより、蓋や操作部材の弾性変形があっても蓋を確実に閉じた状態に保持できる。

【0021】

前記操作部材又は前記ロック部材には、前記操作部材を前記閉位置から前記開位置へ操作したときに前記蓋と接して当該蓋を開く方向に押し上げる押し上げ部（34）が設けられてもよい。この態様によれば、蓋と容器本体との間に内容物が噛み込む等して蓋を開ける際の抵抗が増加しているときでも、蓋を押し上げて確実に開けることができる。

【0022】

前記容器本体にはストラップ（110）を取付け可能なストラップ取付部（14）が設けられてもよい。ストラップを取り付けることにより、容器本体を水平面上に据え置かれる態様に限らず、壁等に沿って吊り下げた態様で保管することができる。

【0023】

前記操作部材又は前記ロック部材の少なくともいずれか一方には蓄光材料が含まれてもよい。これらの部材に蓄光材料を含めることにより、暗所では蓋を開ける際の操作部分が発光するようになり、使用者が容易に蓋を開けられる。また、操作部材やロック部材は蓋や容器本体に比して小型で体積が小さいので、これらに蓄光材料を混ぜたとしてもその混入量は少なく、コスト面で有利である。

【0024】

本発明の蓋付き容器の他の形態においては、内容物の取出口（10）を有する容器本体（2）と、前記取出口を開閉できるようにして前記容器本体に取り付けられた蓋（4）と、前記容器本体と前記蓋との間に配置されて前記蓋を開く方向に付勢する蓋付勢手段（5）と、前記蓋と噛み合って該蓋を前記蓋付勢手段に抗して閉じた状態に保持する閉位置と、前記蓋との噛み合いが解除される開位置との間で操作可能な状態で前記容器本体に取り付けられた操作部材（6）と、を備えた蓋付き容器において、前記容器本体は前記取出口側から見て中央がくびれた形状に形成され、そのくびれ部分に前記操作部材が配置されてもよい。

【0025】

また、本発明の蓋付き容器のさらに他の形態においては、内容物の取出口（10）を有する容器本体（2）と、前記取出口を開閉できるようにして前記容器本体に取り付けられた蓋（4）と、前記容器本体と前記蓋との間に配置されて前記蓋を開く方向に付勢する蓋付勢手段（5）と、前記蓋と噛み合って該蓋を前記蓋付勢手段に抗して閉じた状態に保持する閉位置と、前記蓋との噛み合いが解除される開位置との間で操作可能な状態で前記容器本体に取り付けられた操作部材（6）と、を備えた蓋付き容器において、前記容器本体にはストラップ（110）を取付け可能なストラップ取付部（14）が設けられてもよい。

【0026】

【発明の実施の形態】

図1は本発明の一実施形態に係る容器の外観を示す斜視図であり、(a)は上蓋を閉じた状態を、(b)は上蓋を開いた状態をそれぞれ示している。また、図2は平面図、図3は底面図、図4は右側面図、図5は上蓋を開いたときの平面図、図6は図2のVI-VI線に沿った断面図、図7は図2のVII-VII線に沿った断面図、図8は図5のVIII-VIII線に沿った断面図である。

【0027】

これらの図に示すように、蓋付き容器1は、容器本体2と、その容器本体2の底面側の開口部を閉じる底蓋3と、容器本体2の天面2a側（図1において上面側）に配置される上蓋4と、上蓋4を開くために操作される操作部材としてのプッシュボタン6と、そのプッシュボタン6を拘束するためのロック部材としてのロック7とを備えている。容器本体2、底蓋3、上蓋4、プッシュボタン6及びロック7は樹脂成形品である。容器本体2から底蓋3を取り外すと容器本体2の底面はほぼ全面的に開口し、その開口から容器本体2の内部にウエットティッシュの梱包物を装着することができる。

【0028】

ここで梱包物について説明する。図17に示すように、梱包物100は、シール性を有する袋101の内部に、内容物としての多数枚のウエットティッシュ102…102を、開口103から所定枚数ずつ（例えば一枚ずつ）連続的に取り出せるように折り畳んで収容して構成されている。開口103はシール104にて塞がれており、そのシール104は使用時（すなわち、容器1への収容時）に剥がされる。

【0029】

図1(b)から明らかなように、容器本体2の上部には取出口10が形成されている。その取出口10からは容器1内の梱包物100に収容されたウエットティッシュ102を所定枚数ずつ引き出すことができる。周知のように、取出口10には、ウエットティッシュ102の取り出しに伴って引き上げられる次のウエットティッシュ102の端部を保持するためのフラップ11が設けられている。

フラップ 11 の形状は図示のものに限らず、種々変更してよい。梱包物 100 の開口 103 にフラップ 11 と同等の機能が備えられているときはフラップ 11 を省略してもよい。

【0030】

次に、容器 1 の外観的特徴を説明する。図 2 及び図 3 から明らかなように、容器本体 2 は上下方向からみて左右方向の両端部よりも中央部がくびれた形状に形成されており、底蓋 3 もその容器本体 2 に倣って中央部がくびれた形状に形成されている。プッシュボタン 6 はそのくびれ部分に配置されている。このようなくびれ形状を容器 1 に与えることにより、容器 1 の中央部を掴み易くなる利点がある。容器本体 2 の外周にはスタックライン 13 が設けられている。スタックライン 13 は、容器本体 2 の側面 2b～2e の下部を所定量だけ外側に突出させて形成されている。スタックライン 13 は、複数の容器本体 2 を上下に積み重ねたときに上側の容器本体 2 の下端と係合して容器本体 2 同士の間に適切な隙間を生じさせる。

【0031】

図 1 から明らかなように、容器本体 2 の右側面 2d にはストラップ取付部としてのリング部 14 が設けられている。リング部 14 にはストラップ 110 を結び付けることができる。ストラップ 110 を取り付けることにより、容器 1 をフック等に引っ掛けて吊り下げておくことができる。例えばウエットティッシュ 102 を乳児に使用する場合には容器 1 をベビーベッドに引っ掛けて保管することができる。なお、図 2 以下においてはリング部 14 の図示を省略した。リング部 14 は図 1 に示す位置に限らず、適宜の位置に設けてよい。

【0032】

次に、上蓋 4 及びその開閉に拘わる部分の構成を説明する。上蓋 4 は、その後端部 4b の両端に設けられた回動軸 4c（図 9 参照）が容器本体 2 に回動自在に嵌め合わされることにより、取出口 10 を開閉できるように設けられている。上蓋 4 の上面 4a には、上蓋 4 が閉じられたときに容器本体 2 の天面 2a と上蓋 4 の上面 4a とが一体的に連続する曲面を描くように膨らみが付されている（図 4 参照）。図 1（b）、図 6 及び図 8 に示すように、容器本体 2 と上蓋 4 との間に

は上蓋 4 を開く方向に付勢する蓋付勢手段としての板ばね 5 が設けられている。板ばね 5 は好適には天然又は合成ゴム等の弾性部材にて構成される。但し、本発明の容器はこれらの材質にて構成されたものに限定されない。例えば、ゴム素材に代えばね鋼等を利用して板ばね 5 を形成してもよい。蓋付勢手段は板状のものに限らない。

【0033】

図 9 に詳しく示したように、板ばね 5 の一端は容器本体 2 の板ばね装着孔 2 f に固定され、他端は上蓋 4 のばね取付軸 4 d にキャップ 1 5 を介して取り付けられている。上蓋 4 が閉じた状態で、板ばね 5 は容器本体 2 のばね収容溝 2 g にループを描くように曲げられて収容されている。上蓋 4 が開かれると板ばね 5 が延び、その弾性復元力により上蓋 4 はほぼ直立した状態に保持される（図 8 参照）。

【0034】

容器本体 2 の天面 2 a には上蓋 4 の外周と形状を合わせて第 1 凹部（天面側凹部）2 1 が形成され、その第 1 凹部 2 1 の内部にはさらに一段低められた第 2 凹部 2 2 が設けられている。上述した取出口 1 0 及びフラップ 1 は第 2 凹部 2 2 の底板 2 2 a に形成されている。図 1（b）に示されているように、上蓋 4 の裏面 4 e には第 2 凹部 2 2 と対応した楕円状又は長円状の閉鎖リブ 4 f が形成されている。上蓋 4 を閉じたとき、この閉鎖リブ 4 f が第 2 凹部 2 2 の側壁 2 2 b の直ぐ内側に入り込むことにより、取出口 1 0 の周囲が閉鎖リブ 4 f 及び側壁 2 2 b にて二重に取り囲まれ、容器 1 の取出口 1 0 の周囲に関して実用上十分な密封性が確保される。

【0035】

図 1（b）及び図 5 に示すように、上蓋 4 の前端中央には上蓋 4 を閉じた状態に保持するための爪部 4 h が形成されている。また、上蓋 4 の爪部 4 h の直下にはロック用凹部としてのロック孔 4 j が形成されている。なお、ロック孔 4 j は一端が閉じた穴部として形成されてもよい。さらに、爪部 4 h の両側には切欠 4 k が形成されている。これらの爪部 4 h、ロック孔 4 j 及び切欠 4 k はプッシュボタン 6 及びロック 7 に対応して設けられている。以下、プッシュボタン 6 及び

ロック 7 について説明する。

【0036】

図 11～図 13 はプッシュボタン 6 の詳細を示しており、図 11 は平面図、図 12 は正面図、図 13 は底面図である。これらの図に示すように、プッシュボタン 6 は操作面 30a を有する板状の本体部 30 と、その本体部 30 の両端から突出する支軸 31 と、本体部 30 の裏側の案内面 30b から弓状に突出するばね部 32 と、本体部 30 の後縁部 30c の中央に配置された爪部 33 と、その爪部 33 の両側に設けられた押し上げ部 34 と、爪部 33 とばね部 32 との間に配置された軸部 35 と、案内面 30b から延びる一对の補強用のリブ 36 とを備えている。ばね部 32 の案内面 30b に対する接合部分（基端部）にはロック 7 を差し込むための溝部 37 が形成されている。また、軸部 35 はロック 7 の差し込み方向に延びるスリット 35a により二分割されている。さらに、本体部 30 の案内面 30b の一端（ロック 7 が差し込まれる方向の端部）には段部 38 が形成されている（図 10 参照）。

【0037】

一方、図 14 及び図 15 (a) に示すように、ロック 7 は、板状の本体部 40 と、その本体部 40 の前端に設けられた指掛け部 41 とを備えている。本体部 40 の厚み t はプッシュボタン 6 の溝部 37 を通過できる範囲で最大限に大きく設定されている。本体部 40 の後端中央にはプッシュボタン 6 の軸部 35 を受入れるべくプッシュボタン 6 に対するロック 7 に差し込み方向（図 10 及び図 16 の矢印 A 方向）に開口する溝部 42 が設けられている。その溝部 42 の入口及び中間には溝部 42 の幅を狭める爪部 43a、43b がそれぞれ左右一対ずつ形成されている。これらの爪部 43a、43b により溝部 42 の内部は第 1 保持部 42a と第 2 保持部 42b とに区分されている。

【0038】

溝部 42 の入口の両側には係止部 44 が形成されている。さらに、本体部 40 の上面 40a には一对のストッパ 45 が形成され、下面 40b には一对の脚部 46 が形成されている。脚部 46 の下面 40b からの突出量は指掛け部 41 の下面 40b からの突出量とほぼ等しい。図 15 (b) に示すように、ストッパ 45 は

係止部 44 に向かって下り勾配を描いて延びるくさび面 45a と、頂面 45b と、その頂面 45b に対してほぼ直交する係止面 45c とを有している。

【0039】

図 16 に示すように、ロック 7 は、その本体部 40 を係止部 44 側からプッシュボタン 6 の溝部 37 に押し込み、かつロック 7 の溝部 42 にプッシュボタン 6 の軸部 35 を嵌め込むことにより、プッシュボタン 6 の案内面 30b とほぼ密着した状態でプッシュボタン 6 に装着される。ロック 7 をプッシュボタン 6 に装着する際にプッシュボタン 6 の軸部 35 はロック 7 の溝部 42 に形成された爪部 43a を乗り越えて第 1 保持部 42a に嵌り合う。ストッパ 45 が溝部 37 を通過する際にはくさび面 45a に沿って溝部 37 が徐々に拡大し、ストッパ 45 が段部 38 を越えると溝部 37 が元の幅に戻る。これにより、ロック 7 がプッシュボタン 6 に対して抜け止めされる。

【0040】

軸部 35 が第 1 保持部 42a に嵌った状態でロック 7 を差し込み方向にさらに押し込めば、軸部 35 がロック 7 の爪部 43b を乗り越えて第 2 保持部 42b に嵌り合う。このようにして、ロック 7 はプッシュボタン 6 の案内面 30b に沿って第 1 保持部 42a と軸部 35 とが嵌合する解除位置（図 16 に実線で示す位置）と、第 2 保持部 42b と軸部 35 とが嵌合するロック位置（図 10 に実線で示す位置）との間でスライド可能である。

【0041】

プッシュボタン 6 及びロック 7 は上記の通り樹脂成形品とすることができるが、少なくともいずれか一方の素材に蓄光材料を混ぜることにより、暗所で容器 1 の所在を把握できるようにしてもよい。プッシュボタン 6 やロック 7 が発光すれば暗所でも容器 1 の操作部分が容易に判別できる。プッシュボタン 6 やロック 7 は容器本体 2 や上蓋 4 と比して小型で体積が小さいため、蓄光材料の混入量は少なく済み、蓄光材料を混ぜることによるコストの上昇を必要最小限に止めることができる。

【0042】

以上のように構成されたプッシュボタン 6 及びロック 7 は、まずロック 7 をプ

ッシュボタン 6 に装着し、その後にプッシュボタン 6 の支軸 3 1 を容器本体 2 のボタン取付溝 2 5 (図 1 (b) 及び図 1 0 参照) に開口する不図示の軸受部に嵌め合わせることににより、支軸 3 1 の回りに回転操作可能な状態で容器本体 2 に装着される。

【0 0 4 3】

次に、プッシュボタン 6 及びロック 7 の作用を説明する。図 1 0 から明らかなように、プッシュボタン 6 をボタン取付溝 2 5 に装着した状態においては、ばね部 3 2 がボタン取付溝 2 5 の底面 2 5 a に接触し、そのばね部 3 2 の反発力 (弾性変形に対する復元力) でプッシュボタン 6 が支軸 3 1 を中心に図 1 0 の時計方向に回転付勢される。従って、上蓋 4 を閉じた場合にはそのばね部 3 2 の力でプッシュボタン 6 の爪部 3 3 と上蓋 4 の爪部 4 h とが噛み合っ上蓋 4 が閉じた状態に保持される。このときのプッシュボタン 6 の位置が閉位置に相当する。

【0 0 4 4】

上蓋 4 が閉じた状態でロック 7 をロック位置に押し込めば、ロック 7 の脚部 4 6 がボタン取付溝 2 5 の係止面 2 5 b (図 1 0) と当接する。従って、プッシュボタン 6 の操作面 3 0 a を押し込むことが不可能となり、爪部 3 3、4 h の噛み合いを外すことはできない。しかも、ロック位置では、ロック 7 の係止部 4 4 がプッシュボタン 6 から突出して上蓋 4 のロック孔 4 j に嵌合する。爪部 3 3、4 h 同士の噛み合い量に比して係止部 4 4 のロック孔 4 j に対する嵌合深さは十分に大きくとることができるので、仮に爪部 3 3、4 h が外れるほどにプッシュボタン 6 又は上蓋 4 が弾性変形しても、上蓋 4 をロック 7 にて確実に閉じた位置に拘束することができる。

【0 0 4 5】

一方、ロック 7 をプッシュボタン 6 から抜き取り方向 (図 1 0 及び図 1 6 の矢印 B 方向) に引き出して解除位置へ移動させると、係止部 4 4 がロック孔 4 j から抜けるとともに脚部 4 6 が係止面 2 5 b から離れる。これによりプッシュボタン 6 の操作面 3 0 a を押し下げて爪部 3 3、4 h の噛み合いを外し (この状態がプッシュボタン 6 の開位置に相当する。)、上蓋 4 を開くことができる。プッシュボタン 6 の押し上げ部 3 4 は上蓋 4 の切欠 4 k と噛み合っており、プッシュボ

タン 6 の操作面 30 a を押し込んだ際に押し上げ部 34 が上蓋 4 を持ち上げる。従って、上蓋 4 の閉鎖リブ 4 f と第 2 凹部 22 の側壁 22 b との間にウェットティッシュ 102 が噛み込む等して上蓋 4 を開く際に比較的大きな抵抗が作用する場合でも上蓋 4 を確実に開くことができる。

【0046】

なお、図 10 に想像線で示すように、ロック 7 をプッシュボタン 6 から引き出したときにはストッパ 45 の係止面 45 c がプッシュボタン 6 の案内面 30 b の段部 38 と接触してロック 7 が抜け止めされる。ロック 7 の抜け止めをさらに確実にするため、図 14 に想像線で示したように、ロック 7 の本体部 40 の少なくとも一方の側縁にロック 7 の引き出し方向に向かって斜めに突出する爪部 47 とその爪部 47 を受入れる凹部 48 とを形成し、ロック 7 を溝部 37 に差し込む際に爪部 47 を凹部 48 内に弾性変形させ、溝部 37 を通過した後に爪部 47 を自身の復元力で開くようにしてもよい。

【0047】

ロック 7 の指掛け部 41 は操作面 30 a から突出しているので、ロック 7 をロック位置と解除位置との間でスライド操作する場合は勿論のこと、プッシュボタン 6 を押し下げて上蓋 4 を開く際にも指掛け部 41 に指を添えて操作を行うことができる。上蓋 4 を開く際にはロック 7 が解除位置に引き出されて支軸 31 から指掛け部 41 までの距離が増加するので、テコの作用により上蓋 4 を開く際の操作力が軽減される。

【0048】

ロック 7 の本体部 40 がプッシュボタン 6 の溝部 37 に差し込まれることにより、プッシュボタン 6 の押し下げ方向に関してロック 7 がプッシュボタン 6 に拘束（支持）されているので、指掛け部 41 のみを押し下げてもロック 7 とプッシュボタン 6 とが離れることなく一体的に支軸 31 の回りに回転し、上蓋 4 が確実に開放される。

【0049】

以上の蓋付き容器 1 においては、図 4 及び図 10 に示すように、指掛け部 41 の上端が容器本体 2 の外面（天面 2 a）から突出している。梱包物 100 を容器

本体2に収納して容器1を製品として出荷する場合、容器1のくびれた中央部にシュリンクフィルムが巻き付けられることがある。シュリンクフィルムは熱収縮を利用して容器1の外面に比較的緊密に巻き付けられるため、仮にロック7を省略してプッシュボタン6の一部を容器本体2の外面から突出させた場合には、そのプッシュボタン6の突出部分がシュリンクフィルムによって押し込まれてばね部32が幾らか撓んだ状態でプッシュボタン6が拘束される。このような状態が長時間継続されるとばね部32のばね性能が劣化し、シュリンクフィルムを外した後には些細な衝撃でもプッシュボタン6が動いて上蓋4が意図せずに開放されることがある。しかし、本実施形態の容器1によれば、ロック7をロック位置に押し込んでプッシュボタン6の操作を爪部33、4hが噛み合った閉位置に保持しておくことにより、シュリンクフィルムが巻かれてもプッシュボタン6が押し込まれることがなく、ばね部32のばね性能が劣化するおそれがなくなる。

【0050】

また、容器本体2及び底蓋3をくびれた形状に形成しているので、シュリンクフィルムの幅が容器本体2の膨らんだ部分に達するほどに大きければ、容器本体2の前後の側面2b、2cにおいてフィルムが容器本体2から浮き上がり、プッシュボタン6やロック7がシュリンクフィルムから内側に離れることがある。この場合には、プッシュボタン6やロック7とシュリンクフィルムとの接触部分の擦れによる損傷が防がれる。

【0051】

以上の実施形態で開示した容器本体2のくびれ形状、及びリング部14はロック7が省略された蓋付き容器にも適用可能である。押し上げ部34は操作部材に代えてロック7に設けることもできる。ばね部32は弓形に限らず、片持ち梁状に形成されてもよい。プッシュボタン6及びロック7の形状は容器本体2の形状等に応じて適宜に変更してよい。プッシュボタン6及びロック7は、それぞれの全体が容器本体2の外面（天面2a、側面2b）よりもボタン取付溝25内に後退するように設けられてもよい。

【0052】

上記の実施形態において、天面、底面、側面及び上蓋の語は、取出口を上向き

にして容器を設置した場合を基準として各部の位置を相対的に特定したものに過ぎず、実際の使用時の各部の位置はこれらの用語によって限定されるものではない。例えば、本発明の蓋付き容器は、取出口を横向きにした状態で使用されてもよい。

【0053】

本発明は上記の実施形態に限定されず、種々の形態にて実施されてよい。例えば、内容物はウエットティッシュに限定されない。本発明の蓋付き容器は、底蓋を取り外して内容物を着脱する構成に限定されず、内容物の着脱、詰め替えは適宜の形態で行ってよい。

【0054】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、ロック部材をロック位置に移動させることにより、操作部材の開位置への操作が不能となり、しかも、ロック位置ではロック部材が蓋と噛み合っているので、誤操作等による蓋の意図しない開放を確実に防止することができる。ロック部材を操作部材に取り付けているので、容器本体への取付前に操作部材とロック部材とを予め組み立てておくことができ、容器本体への装着時の手間を軽減して操作部材及びロック部材を容器本体に容易に装着できるようになる。

【0055】

また、容器本体を取出口側からみて中央がくびれた形状に形成した場合には容器を掴みやすくなり、かつフィルムを容器の外周に巻き付けた場合にはくびれ部分において操作部材等からフィルムを浮かせてフィルムのこすれによる損傷を防止できる。さらに、ストラップ取付部を設けた場合には蓋付き容器を吊り下げて保管することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の一実施形態に係る容器の外観を示す斜視図であり、(a)は上蓋を閉じた状態を、(b)は上蓋を開いた状態をそれぞれ示す。

【図2】

蓋付き容器の平面図。

【図 3】

蓋付き容器の底面図。

【図 4】

蓋付き容器の右側面図。

【図 5】

上蓋を開いたときの平面図。

【図 6】

図 2 の VI - VI 線に沿った断面図。

【図 7】

図 2 の VII - VII 線に沿った断面図。

【図 8】

図 5 の VIII - VIII 線に沿った断面図。

【図 9】

図 6 の IX 部の拡大図。

【図 1 0】

図 6 の X 部の拡大図。

【図 1 1】

プッシュボタンの平面図。

【図 1 2】

プッシュボタンの正面図。

【図 1 3】

プッシュボタンの底面図。

【図 1 4】

ロックの平面図。

【図 1 5】

ロックの前後方向の断面図とその部分拡大図。

【図 1 6】

プッシュボタンにロックを装着した状態を斜め下方からみた斜視図。

【図 1 7】

蓋付き容器に内蔵されるウエットティッシュの梱包物の断面図。

【符号の説明】

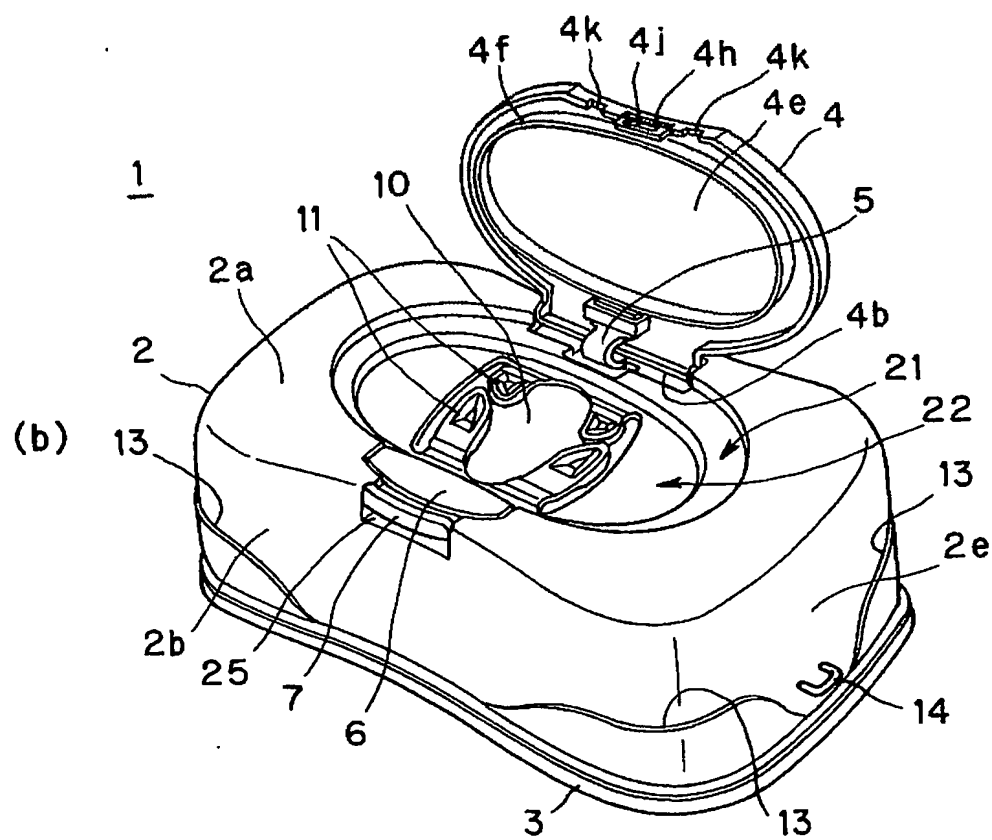
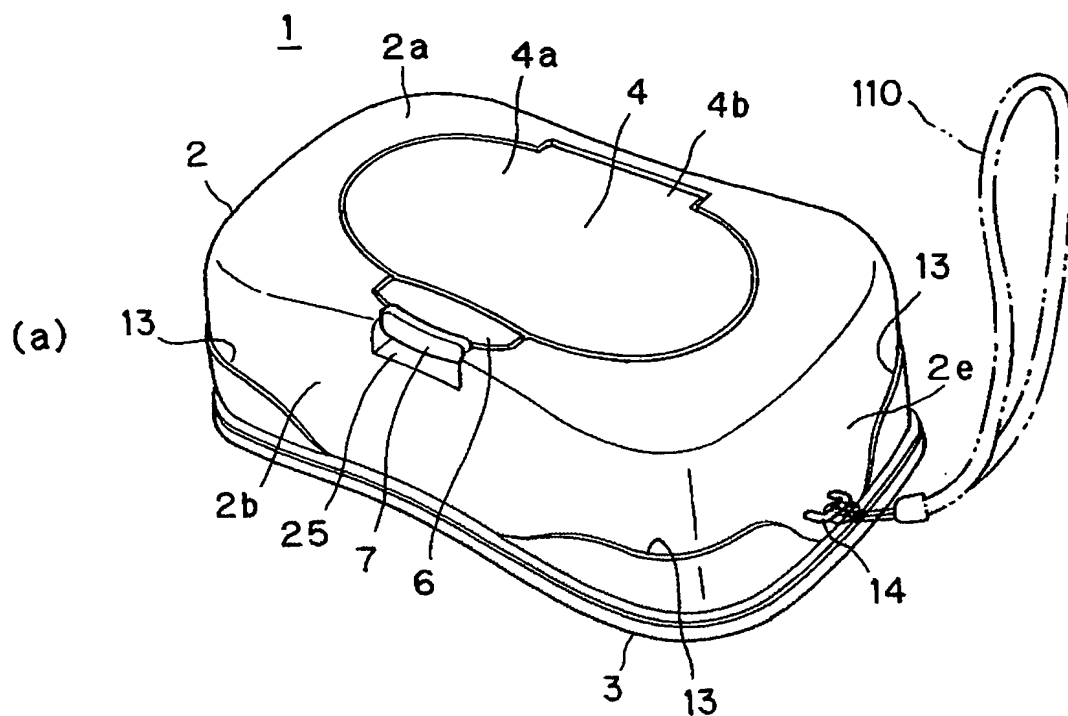
- 1 蓋付き容器
- 2 容器本体
 - 2 a 容器本体の天面（容器の外表面）
 - 2 b ～ 2 e 容器本体の側面（容器の外表面）
- 4 上蓋（蓋）
 - 4 h 上蓋の爪部
 - 4 j ロック孔（ロック用凹部）
- 5 板ばね（蓋付勢手段）
- 6 プッシュボタン（操作部材）
- 7 ロック（ロック部材）
- 1 0 取出口
- 1 4 リング部（ストラップ取付部）
- 2 5 ボタン取付溝
 - 2 5 a 底面
 - 2 5 b 係止面
- 3 0 本体部
 - 3 0 a 操作面
 - 3 0 b 案内面
- 3 2 ばね部
- 3 3 プッシュボタン側の爪部
- 3 4 押し上げ部
- 3 5 軸部
 - 3 5 a スリット
- 3 7 溝部
- 3 8 段部
- 4 0 本体部

- 4 1 指掛け部
- 4 2 溝部
 - 4 2 a 第 1 保持部
 - 4 2 b 第 2 保持部
- 4 3 a、4 3 b 爪部
- 4 4 係止部
- 4 5 ストッパ
- 4 6 脚部
- 4 7 爪部
- 4 8 凹部
- 1 0 2 ウェットティッシュ（内容物）
- 1 1 0 ストラップ

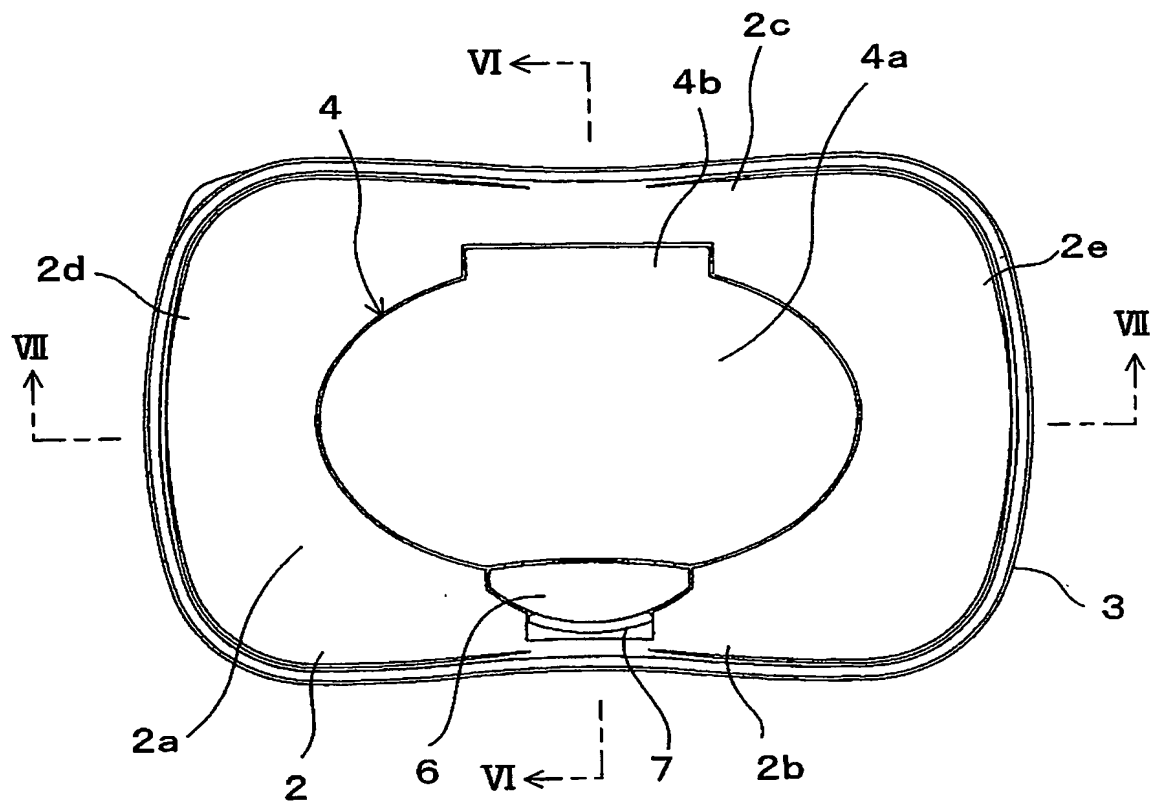
【書類名】

図面

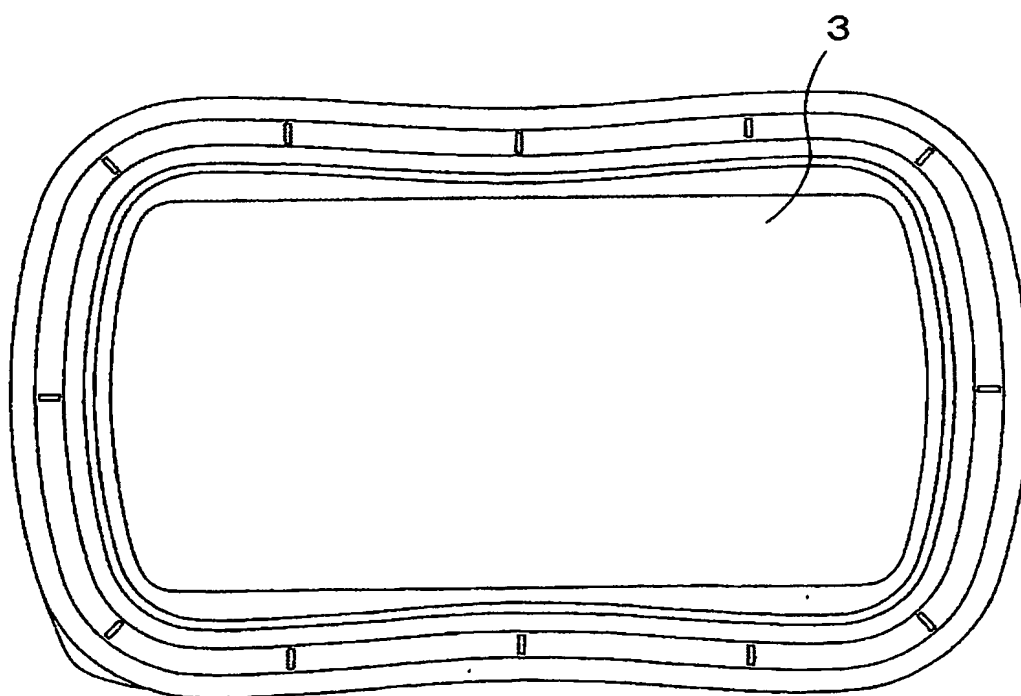
【図1】



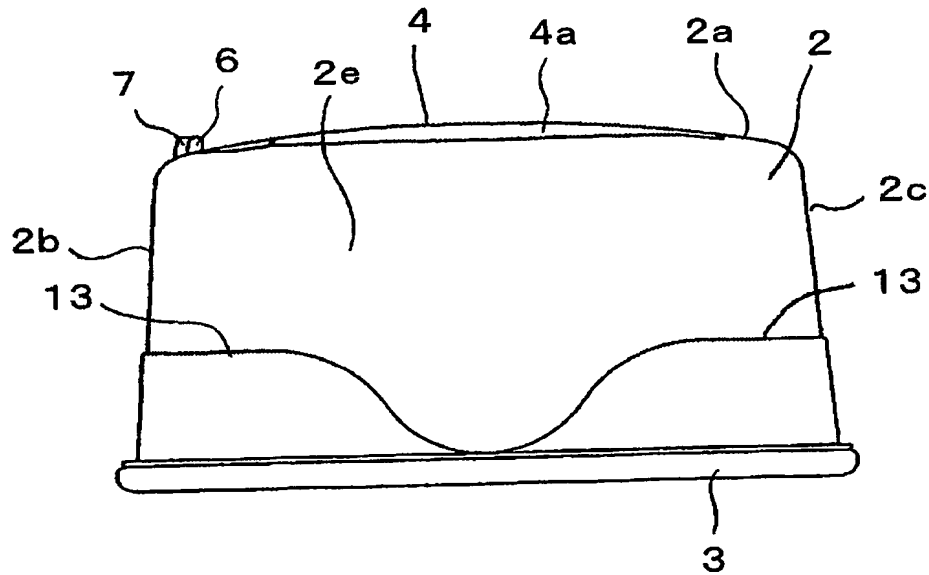
【図2】



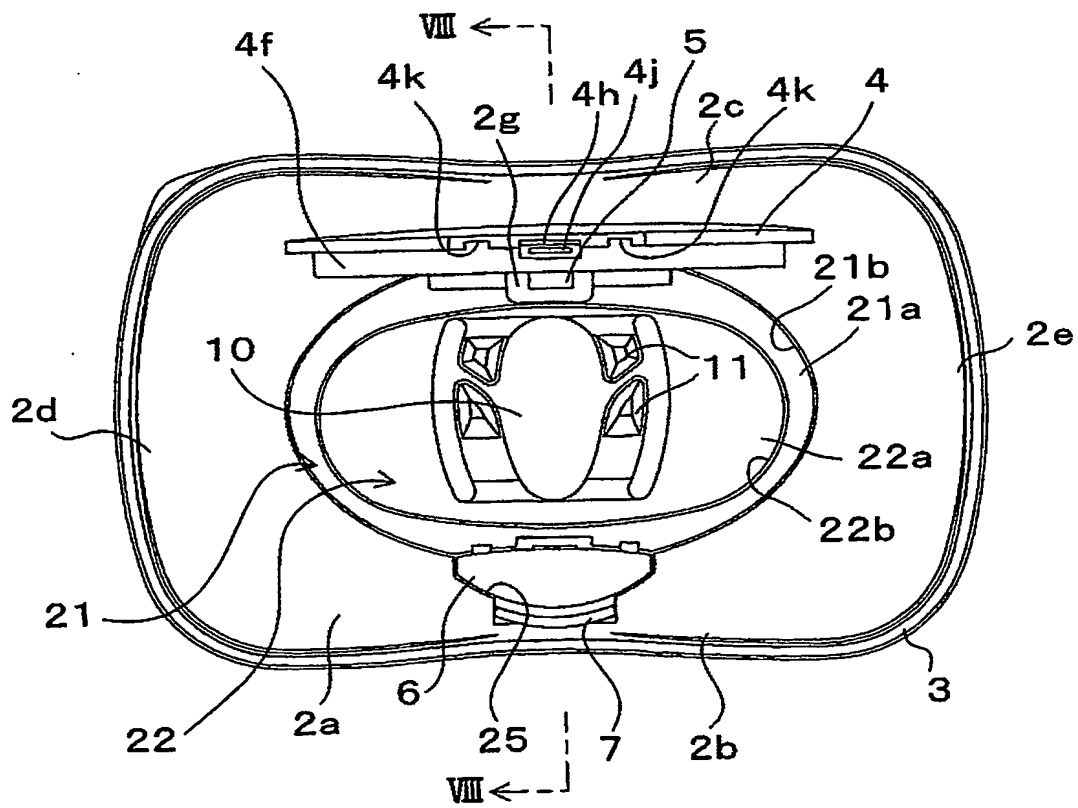
【図3】



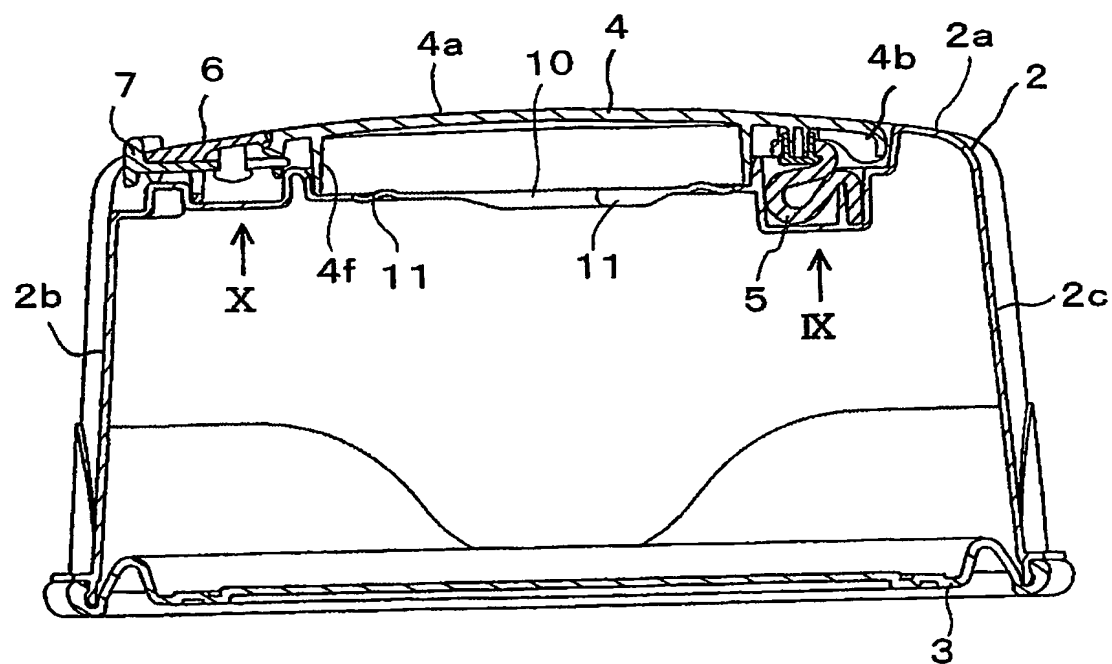
【図4】



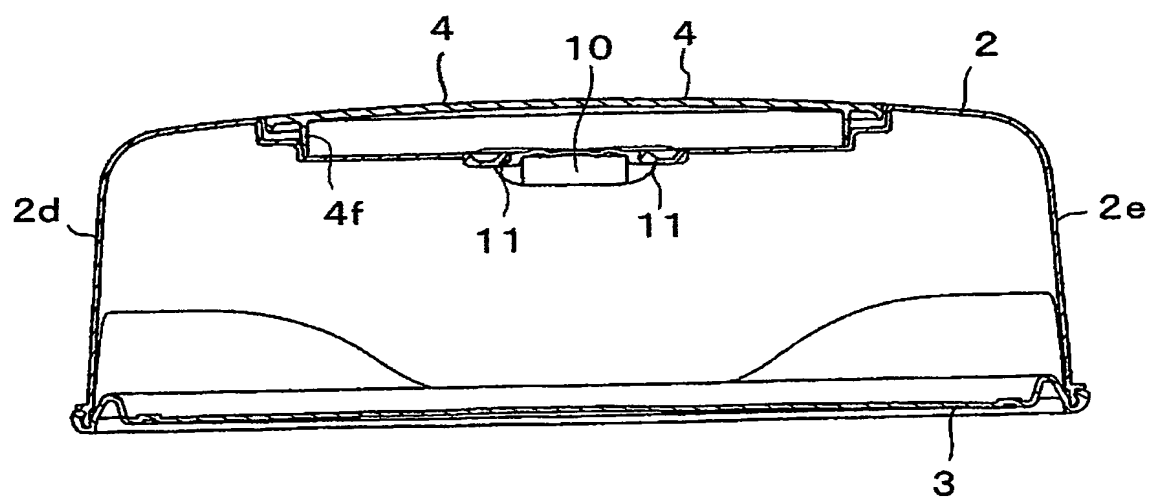
【図5】



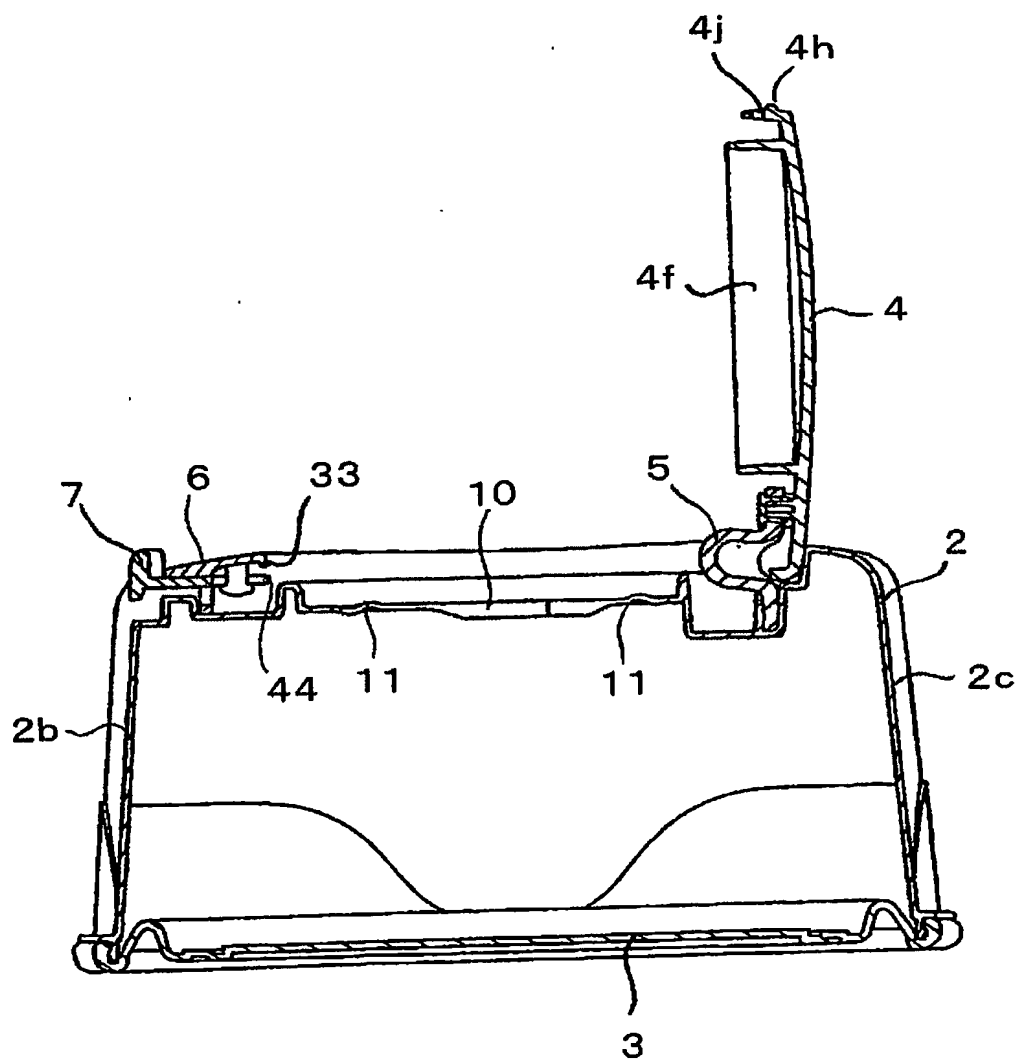
【図 6】



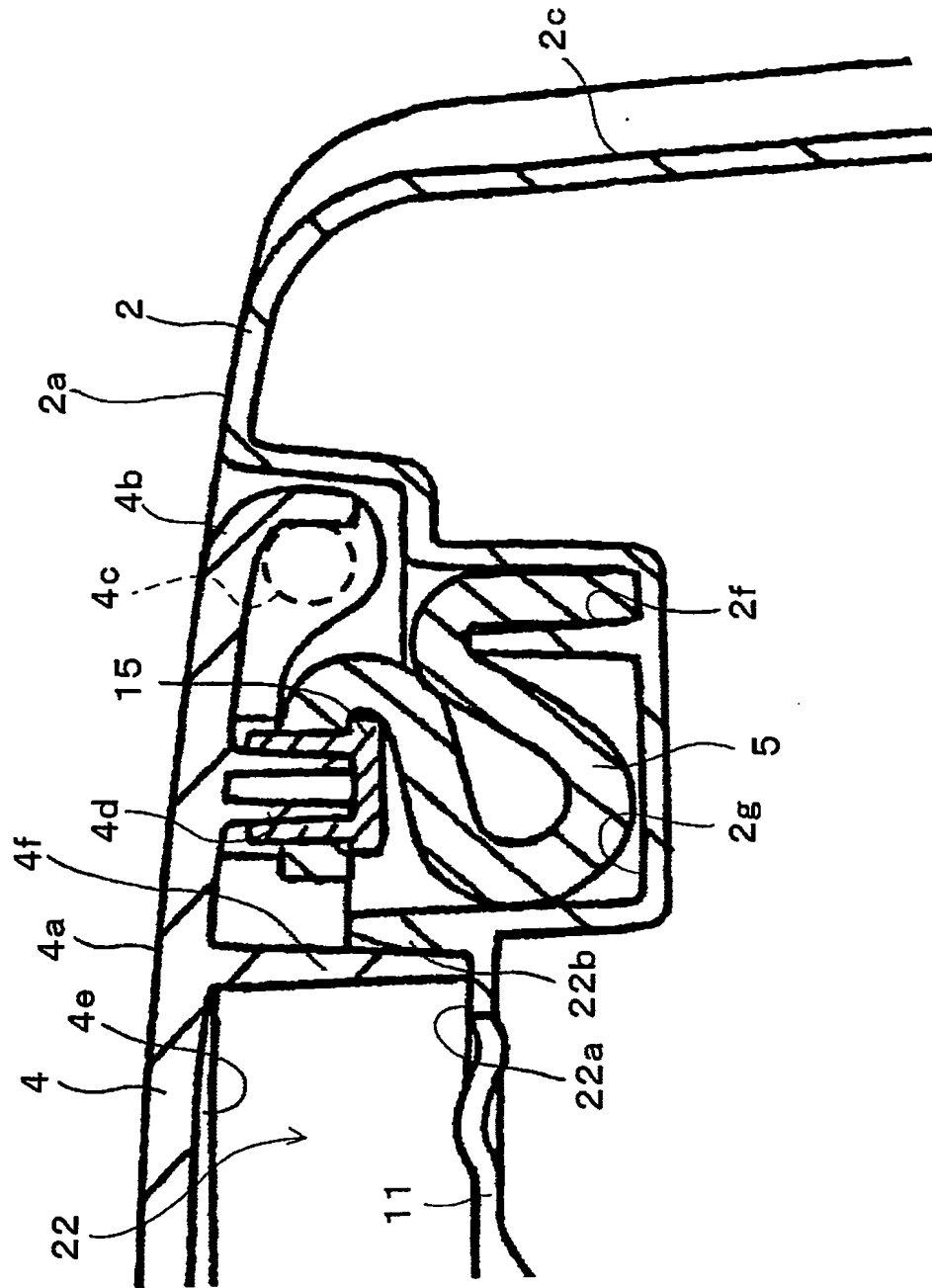
【図 7】



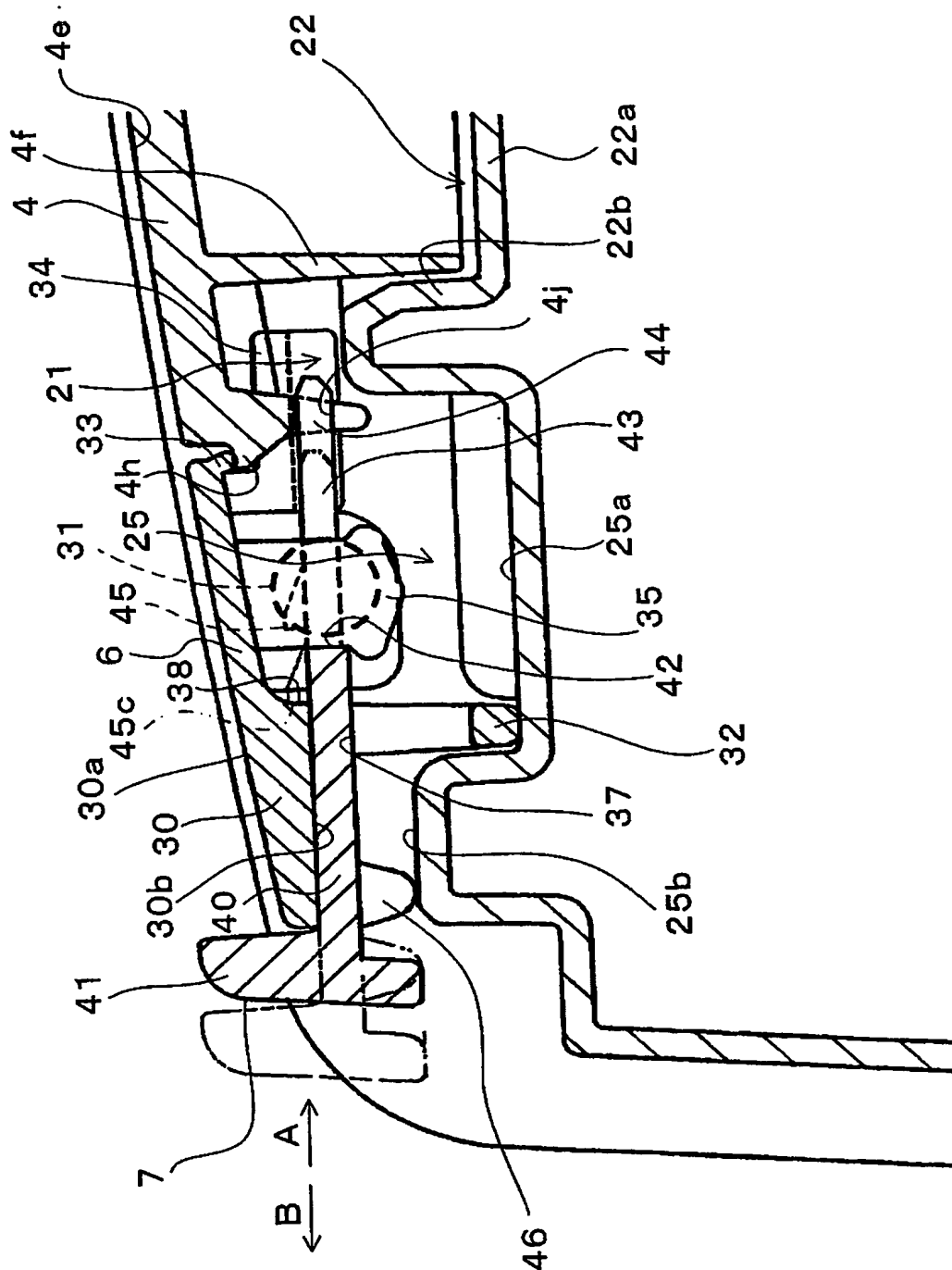
【図8】



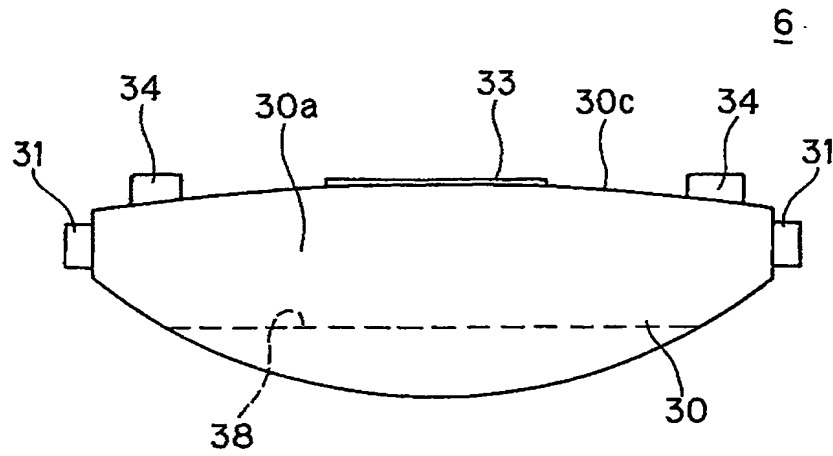
【図9】



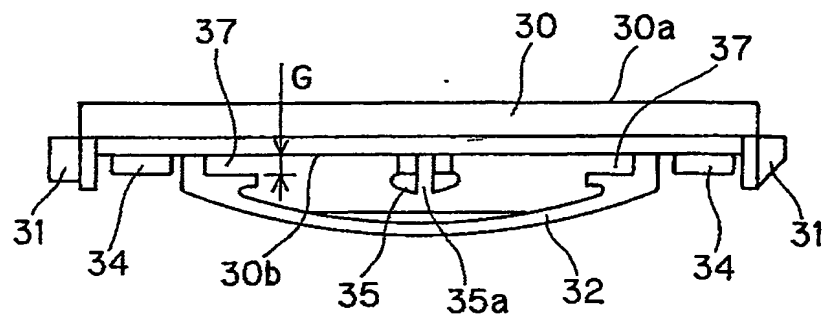
【図10】



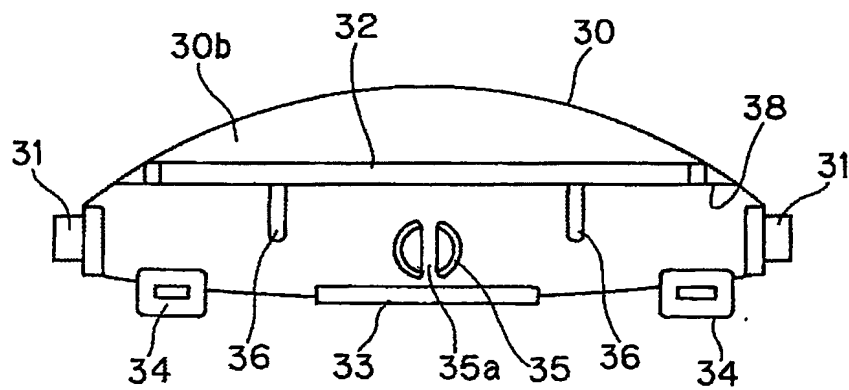
【図11】



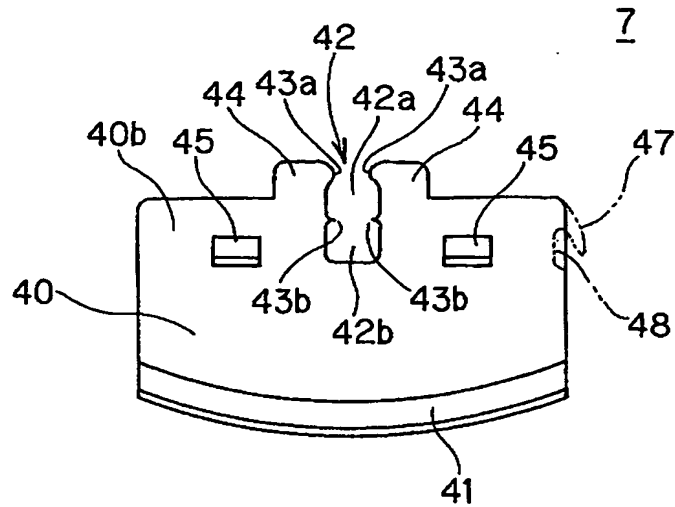
【図12】



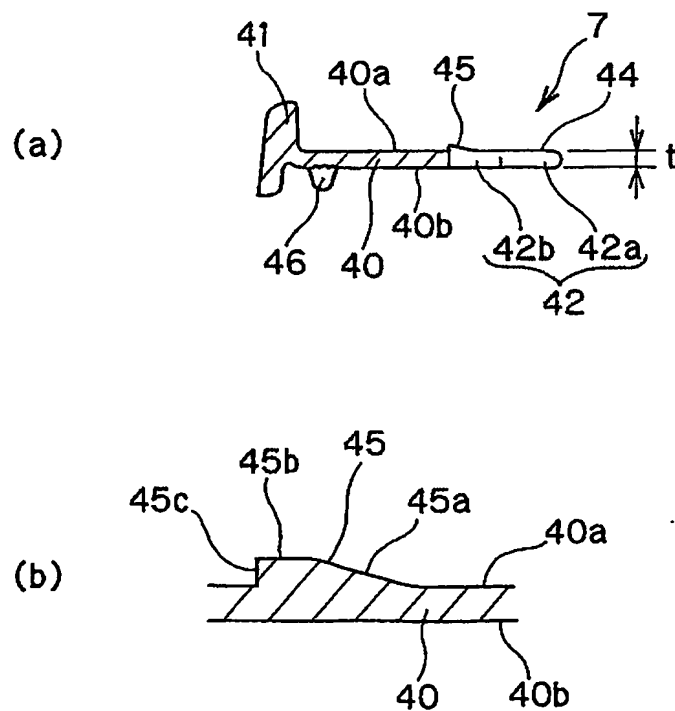
【図13】



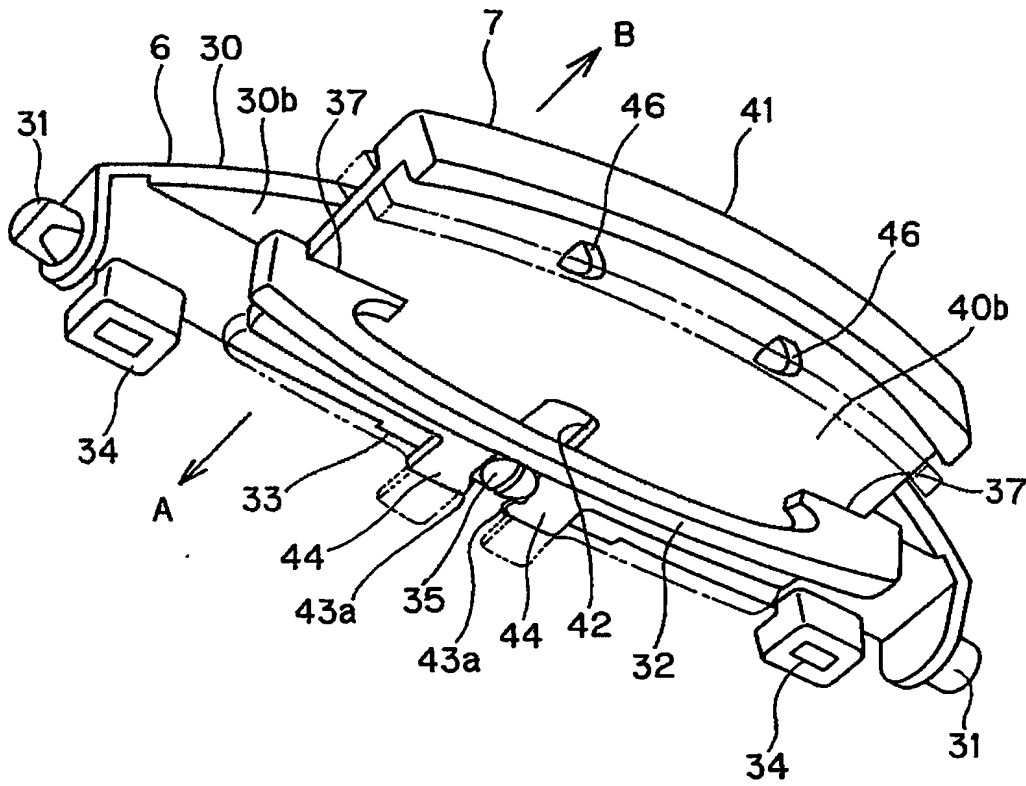
【図14】



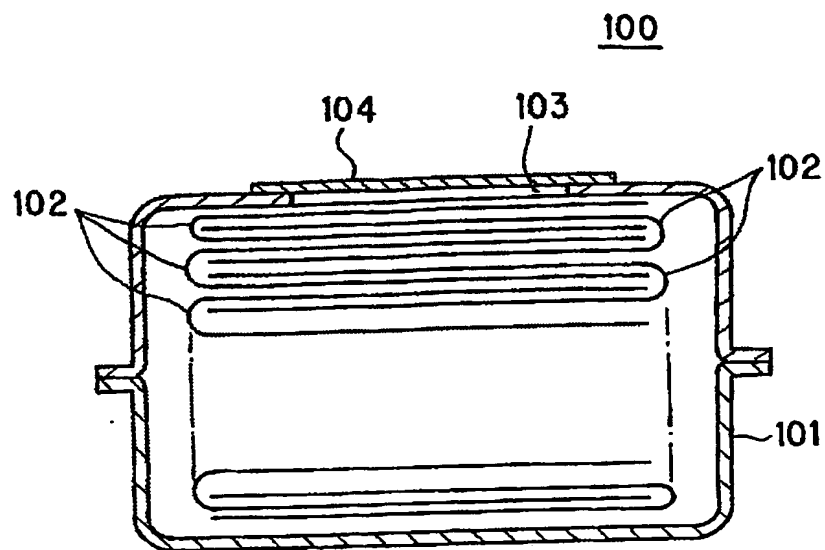
【図15】



【図16】



【図 1 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 誤操作による蓋の開放を確実に防止でき、かつ容器本体に対する操作部材やロック部材の取り付けも容易に行える蓋付き容器を提供する。

【解決手段】 容器本体 2 と、その取出口 1 0 を開閉できるように容器本体 2 に取り付けられた上蓋 4 と、上蓋 4 を開く方向に付勢する板ばね 5 と、上蓋 4 と噛み合って上蓋 4 を板ばね 5 に抗して閉じた状態に保持する閉位置と、上蓋 4 との噛み合いが解除される開位置との間で操作可能なプッシュボタン 6 とを備えた蓋付き容器 1 において、プッシュボタン 6 には閉じた状態の上蓋 4 と噛み合うとともにプッシュボタン 6 の操作方向に関して容器本体 2 の係止面 2 5 b と当接してプッシュボタン 6 の開位置への操作を不能とするロック位置と、上蓋 4 及び容器本体 2 の係止面 2 5 b から離れてプッシュボタン 4 の閉位置から開位置への操作を許容する解除位置との間で移動可能なロック部材 7 が取り付けられる。

【選択図】 図 1

特願 2003-006443

出願人履歴情報

識別番号

[000115108]

1. 変更年月日

1990年 8月24日

[変更理由]

新規登録

住 所

愛媛県川之江市金生町下分182番地

氏 名

ユニ・チャーム株式会社

特願 2003-006443

出願人履歴情報

識別番号

[000002897]

1. 変更年月日

1990年 8月27日

[変更理由]

新規登録

住所

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

氏名

大日本印刷株式会社